## いち早く稲作がはじまった

# 立花遺跡

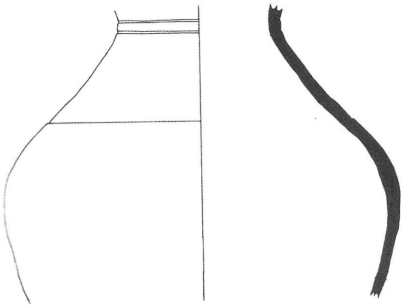
立花遺跡は、弥生時代前期から中期にかけての遺跡です。前期の土器は、文様が一様で「遠賀川式土器」とよばれています。この土器は、滋賀県内ではあまり出土していませんが、立花遺跡からは多量に出土しました。その特徴は、壺の頸部に段をもち、削り出した凸帯をもつこと、甕については、口縁端部に刻み目が施され、ヘラで描かれた沈線文を施すことにあります。また、文様に「木葉文」とよばれる美しい模様を施すものもあります。これらの土器は稲作に伴って伝えられたと考えられており、このような土器が多量に出土した立花遺跡は、滋賀県下でもいち早く稲作がはじまった村です。

中期の出土品で注目できるのは、玉作り関係の石器類の出土です。佐渡島産とされる碧玉の原石が出土したほか、原石を割るために使った扁平片刃石斧、楔形石器をはじめ、石を切る石鋸や砥石などの工具類が出土しています。石鋸の紅レン片岩は和歌山県紀の川流域から持ち運ばれてきたものです。

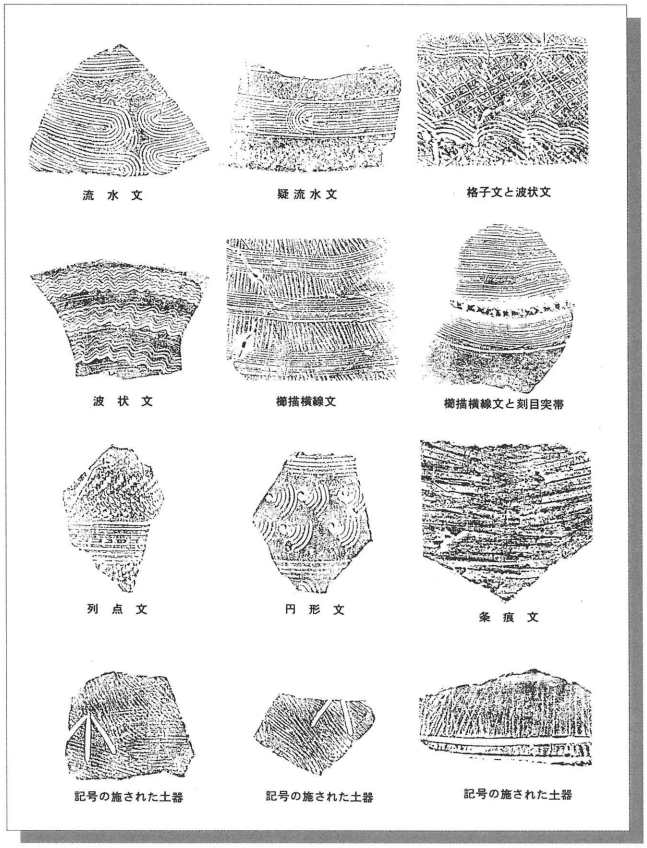
作られた製品は細形管玉とよばれるもので、ひもで結び首などにかけた装飾品となりました。なかには、まだ穴があけられていない未製品もあり、工具類を伴うことから、玉造りの工房があったようです。

玉造りの石器

平成24年度 市内遺跡保存活用事業



遠賀川式土器実測図（立花遺跡）

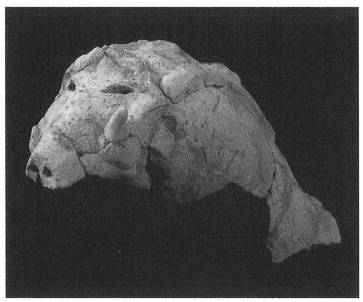



弥生中期土器の文様

## 大乾古墳群（上多良）

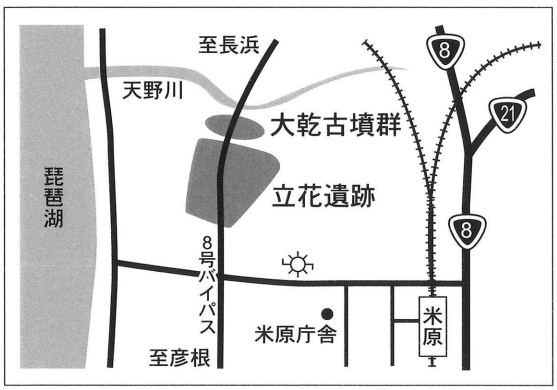
弥生時代から古墳時代の墓域で、周辺には同時代の集落が点在していることから、これらの村落の首長たちのお墓だと考えられています。古墳は５基検出されました。いずれも高塚（たかつか）の盛土は奈良時代に掘削されていましたが、周囲をめぐる周壕（しゅうごう）から、いずれも直径約20mの円墳と考えられ、５世紀末から６世紀初頭に築かれました。１号墳の周壕からは、円筒埴輪（えんとうはにわ）を中心に、馬、人物、家などの形象埴輪（けいしょうはにわ）も出土しています。隣接する２～５号墳からは埴輪が出土しておらず、同時代の同一地区、同一規模で、埴輪を持つ古墳と持たない古墳があり、被葬者の階層の相違がみられます。

大乾1号墳



馬形埴輪

立花遺跡・大乾古墳群位置図




## 立花遺跡

■ 所 在 地　　滋賀県米原市上多良

■ アクセス　　JR東海道線米原駅下車。徒歩約30分。
※現況は水田・道路です。


**米原市教育委員会**

滋賀県米原市長岡1050-1　TEL.0749-55-8020



平成24年度 市内遺跡保存活用事業